

自治体・民間ヒアリングと アイデアソンの実施

令和8年8月27日
政策統括官付



概要	- データ整備・利活用の主体である自治体や民間事業者にヒアリングを実施 - 現状の課題やニーズを把握するとともに、課題に題する対応方針案を作成し、来年度の取り組みの参考とする。
実施時期	令和8年6月上旬～
ヒアリング対象	自治体 : 7自治体(都道府県・市区町村) 民間事業者: 8社(ナビ会社等)

	自治体	民間
ヒアリング内容	データ整備 ○自治体内におけるバリアフリー施策の優先度（人的・予算） ○バリアフリー施策の中の優先度 ○データ整備の優先度が上がる条件 ○データ整備に係る課題、ボトルネック	○自社でバリアフリーデータを収集する上での課題 ○国・自治体等からの委託業務でデータを収集する可能性
	データ利活用 ○バリアフリーマップの作成・運営に係る課題	○ほこナビDPのデータは面的・質的な有用性 ○データ利活用に当たっての条件 ○バリアフリールートに関するユーザーからの反響



- データ利活用の促進を目的とし、ほこナビDPを用いた新しいサービスの創案を行なうアイデアソンの企画検討中
- 民間事業者、自治体、移動困難者等の多様な視点から、バリアフリー案内を超えたアイデアが創出されることを期待
- 開催方式については次ページにて2案を検討中

歩行空間DXアイデアソン概要(案)

目的	車椅子利用者等をはじめとする移動困難者を対象に、歩行空間ネットワークデータ等の活用によって、外出時における負担軽減に資する新しいサービスを創案		
参加者	サービス開発事業者、自治体のバリフリ担当職員、移動困難者等		
内容	・ほこナビDPのツール、データ仕様の説明(事務局) ・グループごとにファシリテーター付きでフリーディスカッション(参加者)		
参加者募集方法	国交省HP上にて告知	実施時期	令和8年度中に1回開催



案 (概要)	案1 地域選定型 (発注者(国交省)が地域を選定)	案2 地域非選定型 (ほこなびDPにデータが格納されている地域全般)
主催者	国交省 or 歩行空間DX研究会 選定地域の自治体	国交省 or 歩行空間DX研究会
メリット	○地域選定 ・地域独自の課題等を自治体から説明してもらうことにより、直面する課題に即した発案ができる。 ○参加者 ・自治体独自に整備したデータ活用の可能性も考慮し発案できる	○地域選定 ・地域選定にかかる手間が発生しない ○参加者 ・全国から参加者が集まる可能性がある
デメリット	○地域選定 ・歩行空間NWデータが整備されていない地域が選定される可能性がある ・地域選定にかかる手間(選定方法の検討、自治体との調整)が発生する ○参加者 ・選定地域に接点のある方のみになる可能性がある	○地域選定 ・主催者が国交省のみであるため、直面する課題に即した発案ができない可能性がある ○活用データ ・国交省で整備したデータのみ活用となる
(参考)	PLATEAU hack challenge	Project LINKS Links:POWER of DATA × DATA